

皆さん、こんにちは！

ぼくは、日本で初めて(?)の、臓器のゆるキャラ「肝ちゃん」です。お父さんは、佐賀県、お母さんは佐賀大学医学部です。佐賀県は肝がん粗死亡率が全国ワースト1位ということで、県を挙げての汚名返上プロジェクトを展開しているのですが、そのアイドルがぼくって訳です。タレントのはなわさんと一緒に「肝炎検査に、い肝ば、い肝！（「肝炎検査に行かないといけません！の佐賀弁）」というCMで共演しました。

先月は山口県の下関市のキャラクター「こころん」さんが自己紹介と下関市の肝炎対策をご紹介されていましたので、じっとしてられず、登場させていただきました。

今年の5月は佐賀県は肝炎啓発で熱かった。厚生労働省の肝炎対策の啓発事業である「知って、肝炎！」プロジェクトの一環として、佐賀県にそのスペシャルサポーターの、、何と！AKB48の高橋みなみさんが来られて、ぼく、肝ちゃんと共演したのです。こんなに大物のタレントさんとのステージは初めての経験。また佐賀大肝疾患センター長と肝臓ミニ講座、そして佐賀県知事と佐賀大学長をお迎えしてのトークショーを行い、300人近い方が参加して、大成功を納めたのですが、その突貫準備がぼく、肝ちゃんが端から見ても、ホント大変でしたが、さすが佐賀県、約1ヶ月でゼロからの企画を成功させたのです。

今日は、その驚愕の佐賀県の肝炎対策のチーム力を紹介します。

4月1日、厚生労働省の肝炎対策推進室の室長から佐賀大肝疾患センターのセンター長（えぐちというひと。元気だけが取り柄。）に、一本の電話が鳴ったことから始まります。

「鈴木ですけど、例の「知って、肝炎！」の県への訪問の件なんだけど、5月8日がスペシャルサポーターのAKB48の高橋みなみさんの日程調整が可能だということだから、県庁やその他、関係しそうな方々と調整できます??」

5月8日がイベントで、入電は4月1日、そしてお迎えするのは、AKB48の総監督の高橋みなみさん。「大丈夫かな、、、汗」と思わないで、「よしっ」と、即座に走り出すのが、肝疾患センターのえぐち、すぐ県庁健康増進課の係長に連絡し、めまぐるしい1ヶ月のバタバタ準備が始まったのです。えぐちは、まず医学部長室に直行、表敬訪問相手の候補であった病院長、医学部長の日程照会。その日は全国的な会議で両者とも佐賀に不在とのことで、学部長は直ちに学長の予定の照会、確保をされた。何と県庁の係長は、その日が着任日！！健康増進課が肝対策に着任して、最初のミッションが「知って、肝炎！」プロジェクトになりました。

係長も生粋の九州男児、決めたら庁内ですぐ調整開始。県知事の予定を秘書課に確認、その他、関係部課に連絡です。前任の係長も九州男児で「肝炎啓発は人が集まるところで、肝炎ウイルス検査も抱き合わせで実施！」を貫いてきましたので、新任係長もその意向に沿って、場所の調整開始です。佐賀

県で人が集まるところって、ショッピングモールぐらいしかありませんから、地元のショッピングモールの担当部署にすぐ連絡、日程調整を始めました。えぐちは、これまで肝炎啓発で知り尽くした佐賀県内のメディア担当者を考え、サガテレビとNHK 佐賀放送局にすぐ連絡、両放送局は「すぐ取りかかりましょう」と、やはりここも「前進あるのみ」、佐賀県は全プレイヤーがこんな感じ。

役割分担としては、事務局が県庁健康増進課、その支援を佐賀大肝疾患センター、トークショーの司会、構成をNHK 佐賀放送局、イベントステージ企画がサガテレビと関係会社に決まり、早速、1週間後に東京から「知って、肝炎！」事務局もお迎えしてキックオフミーティングが開催されました。

そのミーティングでは、開催までの流れを確認し、各役割を確認して短い期間で抜かりが無いように打合せが行われたのだけど、内容の検討から予算の調整、安全確保、動線を含む場所の調整が行われたんだって。佐賀県の肝炎対策チームって、すごいんです。よく「聞いてないよ」という課題のハードルを一気に上げるコメントが言われることがあると思うのだけど、一切無し、というか、そんな雰囲気が出ると、瞬時に、えぐちが「だれも聞いていない課題をチームでこなしていくのだから、当たり前のこと、何言ってるの？肝がん減らしたくないの??」と激を飛ばす。緊張のシーンもあったらしい。そんな感じで各部署が緻密に準備をしてきました。

その後、「知って、肝炎！」事務局も事細かに最善を尽くして多くを調整下さり、県内でもイベントの予算の調整、知事や学長の登壇の準備、ストーリーや台本の作成など着々と準備が進んで行ってたらしいんだけど、、、、。

やはり高橋みなみさんは、AKB48の中でも総監督だけあって、大変な人気があり、その分、安全面での配慮はとってとても大切なこと。佐賀に入る手段や県内の移動、さらにイベント会場での出入り、会場周辺の安全確保などなど細かな検討が行われていたんだけど、なんと！開催10日前に県庁からえぐちにメールがあったらしい。えぐちの部屋から「えーーーっ」って、叫び声が聞こえたのです。

どうやら会場として準備していたショッピングモールでの安全確保で解決できない事項があり、会場を変更せざるを得ないとのこと。えぐちの頭の中は「あと10日で新たな会場をどうやって準備しよう、、、」と。

ところが佐賀県庁の方は、いつも冷静沈着。こんなこともあろうかと県庁の1階にある大ホールの「県民ホール」を仮押さえしていたとのこと！さすがです。会場の特性上、無料肝炎ウイルス検査の併設は出来なくなったのですが、それ以外はトントン拍子で手配や準備が整いました。

そして何度かのミーティングや準備作業、警備手配等を順調に終えて、あっという間にゴールデンウィークが過ぎ、前日を迎えました。前日には厚生労働省肝炎対策推進室の室長、担当者の方々「知って、肝炎！」の事務局の皆さん、当然、ぼく、肝ちゃんもえぐちもその他の大勢のスタッフが県庁に結集し、最終準備を行いました。嬉しかったのは、前日、高橋みなみさんがツイッターで「明日、肝炎のイベントで佐賀に行くよ」とつぶやかれたこと。イベントが夢じゃないって、興奮したことを今も思い出します。

当日を迎えればあっという間、無事に高橋みなみさんは佐賀に到着し、NHK 佐賀放送局でインフォマ

ーシャルのための撮影や夜のニュース番組のためのインタビューなどをこなし、イベント会場の県庁へ。イベントでは、2 日前の告知にもかかわらず300人近い方が観覧に来られて、知事も学長も笑顔でトークショーに参加されて、無事にイベントを終えることが出来ました。イベントの様子は複数のテレビ、新聞その他、報道機関の皆さんにもたくさんご紹介いただきましたから、啓発の効果としては、抜群であったらと確信しています。佐賀県の皆さんもイベント成功は喜んでおられ、県の本イベントの最高責任者のF 医療統括監は、室長に「次は〇〇〇さんを秋くらいにお呼び出来ますか！？」などおっしゃっていて、一同、大笑い。都道府県、肝疾患拠点病院、地域のメディアの方々らが力を合わせれば、このような大きな疾患啓発イベントも短期間で開催することが可能なんだと、地域ぐるみの大切さを改めて知る機会になりましたし、何よりさらに県内の絆が太くなったこと、これは大きな財産になりました。

本誌をお読みの全国の自治体の皆さんも、遠慮なく、厚生労働省、肝炎対策推進室にぜひ手を挙げて、地域の肝炎啓発に「知って、肝炎！」スペシャルサポーターをお呼びしませんか！抜群の啓発効果が期待出来ますよ！「佐賀県の肝ちゃんに紹介された」って、言って頂ければ、スムーズ(!?)かと思っています。

「肝炎検査に、い肝ば、い肝！」

そして、今のうちに「知って、肝炎！スペシャルサポーターを呼ばんば、い肝！（呼ばないといけませんよ）」

では、また。佐賀県の肝ちゃんより。